

令和8年度 学校改善計画

学校関係者評価委員会よりいただいた報告・提言を受けて学校改善計画を作成しました。評価委員会には、本校がこれまで進めてきた教育活動について肯定的に評価していただき、教職員一同さらに学校改善に向けての意識を高めたところです。一方で、「キャリア教育」「相談体制」「健康的な生活習慣」「運動への主体性」等の課題については厳粛に受け止め、次年度の教育課程の中で更なる工夫をしながら取り組んで参ります。その課題改善に向けて、令和8年度の重点目標と具体的方策を以下のように設定しました。

学校評価の結果をふまえて設定した課題

- キャリア教育（将来や生き方を考える学習）の充実
- 児童が安心して相談できる環境づくり
- 健康的な生活習慣（食事・睡眠）の定着
- 運動への主体的な取り組みの向上
- 目標をもたせ、達成に向けて支援する指導の充実

○重点目標1 ESDによる豊かな伝え合いを通して、深く考える子どもの育成（知）

関係者評価からの提言

「思いや考えを表現する」「ESDへの関心」「学ぶことが楽しい」といった項目は概ね高い水準にあるが、目標値には一部届いていない。これまでの授業改善の取組は有効であり、今後も継続しながら、児童が主体的に考え表現できる授業づくりのさらなる充実が求められる。

〔数値目標〕

- 自分の思ったことや考えたことを文章や言葉で表現し、タブレット端末等を活用し、伝え合う場を多様に設定することにより「自分の思いや考えをすすんで表現する」子どもを90%以上にする。
- 「教育活動全般を通してESD、SDGsにすすんで取り組む」子どもを85%以上にする。
- 豊かな伝え合いを作り出す工夫された授業を行い、「学ぶことが楽しい。」子どもを80%以上にする。

〔方策〕

「せたがや探究的な学び」をキーワードに、児童の学びに向かう力の育成を図る。

- ① キャリア・未来デザイン教育を推進し、児童自らの問いを引き出し、問題解決能力を高める。
- ② 各教科において、ペア学習や小グループ学習を取り入れ、タブレット端末を活用して考えを共有し深める。
- ③ 地域の自然や文化を活用した学習を通して、ESDの視点を生かした主体的な学びを推進する。

○重点目標2 自己有用感を高め、思いやりのある子どもの育成（徳）

関係者評価からの提言

多くの項目で高い評価を得ており、重点目標は達成されている。一方で「先生に相談できる」割合は十分とは言えず、安心して相談できる関係づくりのさらなる充実が求められる。

〔数値目標〕

- 「自分からあいさつの声をかけることができる」子どもを90%以上にする。
- 「相手の気持ちを考えて行動している」子どもを90%以上にする。
- 「学校生活が楽しい」子どもを90%以上にする。
- 「先生に相談できる」子どもを80%以上にする。

〔方策〕

学校・家庭・地域が連携を図り、児童の「よさ」を見つけ、引き出す。

- ① 異学年交流や特別支援学級との交流活動を通して、多様な人との関わりを深める。
- ② 道徳教育を中心に据え、自他を大切にする心を育てる。
- ③ 教職員全体で児童理解を深め、相談しやすい雰囲気づくりを行う。

○重点目標3 健康な体づくりや体力の向上にすすんで取り組む子どもの育成（体）

関係者評価からの提言

健康や運動に関する意識は向上傾向にあるが、目標値には達していない。学校・家庭・地域が連携し、継続的な働きかけを行うことが必要である。

〔数値目標〕

「健康な生活をするを心がけている」「めあてをもって体育や運動に取り組んでいる」と回答する子どもを85%以上にする。

〔方策〕

児童が自分自身の健康を意識し、運動や生活習慣について考える機会を日常的に設定する。

- ① 体育の授業において目標設定と振り返りを行い、主体的な運動への意識を高める。
- ② 休み時間の外遊びを奨励し、体を動かす機会を増やす。
- ③ 家庭との連携により、生活習慣の定着を図る。